

第 51 回テーマ

リスクの取り方について

今日、社民党の連立政権離脱のニュースを見た。詳細についてはテレビ報道などでの情報のみで良くわからない部分もあるが、ますます混沌とした局面を迎えそうだ、というのが率直な感想だ。職業柄、企業経営の事を考えると、広く景気上昇局面を迎えるのはまだまだ先ではないか？と再びそんな事を感じてしまう。

結局のところ、名目GDPが成長したとしても、雇用環境が改善されず、賃金が上がらなければ消費も上がらないというのが結論だ。製造業や不動産の景況感は少しずつ改善しつつあるが、雇用状況は以前として悪化している。格差はますます広がり、社会問題化しているにも関わらず、手を下すスピードが遅いのは極めて国益を損なうのではと思ってしまう。

しかしながら、愚痴を言っても始まらない。経営においては何とかしなくてはならない。その為に必要な事は何か？開発である。リスクを取ってでも、顧客に受け入れられう商品・サービスを開発していかなければならないと思う。iPadの売れ行きを見ていると感じるが、新しいテクノロジーへの期待とともに、消費ムードが向上しているのがわかる。正直、あまり使いこなせない人でも「欲しい」と思ってしまう点が素晴らしい。お金がない人でも「買いたい」とモチベーションが上がる魅力がそこにあるのだ。

裏を返せば、誰にでもチャンスはあり、ムーブメントを起こすには一定の投資と時間、そして情熱が必要なのではなかろうか。無論、全ての企業や人が成功するわけではない。リスクはある。お金というリスク・時間というリスク...様々だが、リスクを取っていかない限りは競争優位に立てない。経営はギャンブルではいけないが、執拗に考え抜き、行動に移す勇気も必要となるだろう。

景気が回復して欲しいのは誰もが願っている。でも、それだけでは優位に立つ事はできない。決断力と行動力が一層求められていると思われる。それが今ではなかろうか。